

令和 2 年度研究計画書

令和 2 年 4 月 1 5 日

研究種類	基盤研究		
研究課題	富士北麓における草食獣 3 種の種間関係および行動特性		
研究代表者	高田隼人		
研究期間	平成 30 年度 ～ 32 年度 (3 カ年)		
共同研究者	杉田幹夫	研究協力者	
研究目的		研究目標	
富士北麓に生息するカモシカ、シカ、ノウサギの保全および管理をおこなうために必要な、各種の個体群動態や生息地利用、採食生態、行動圏利用などの基礎生態情報を得ることを目的とする。		<ol style="list-style-type: none"> シカ・カモシカの個体群動態の把握 同所的に生息するシカ、カモシカ、ノウサギの生息地利用および食性の解明 富士山高山帯のカモシカの群落選択および行動圏利用パターン、社会生態の解明と他地域との比較 	
全体の研究計画	<p>●調査地：富士山北麓（研究所から 6 合目にかけて）</p> <p>1.シカ・カモシカの個体群動態の解明</p> <p>5 月、11 月に富士林道と軽水・鳴沢林道において行うライトセンサス調査を継続し、シカとカモシカの目撃数を記録することにより、個体群の経年変化を明らかにする。</p> <p>2.草食獣 3 種の種間関係</p> <p>標高 2000m～2500m の森林限界付近と 1700～2000m の常緑針葉樹林において、シカ、カモシカ、ノウサギの糞をそれぞれ採取し、ポイント枠法による分析をおこない、3 種の食性を明らかにする。また、環境中の各種の採食可能な植物の現存量をバイオマス指数（植物の被度×高さ）により評価する。富士北麓全域において 3 種の糞塊調査を実施し、3 種の分布状況および生息地利用を解明する。</p> <p>3.高山帯カモシカの行動特性</p> <p>森林限界に生息するカモシカに GPS 首輪を装着し、行動圏、群落選択、季節移動の有無、社会生態を解明する。捕獲以降は月に 1 回 GPS 首輪のデータをダウンロードする。また、富士山のカモシカ特有の行動特性を解明するため、行動圏利用や社会生態、食性、個体群密度を浅間山に生息するカモシカと比較する。このため、浅間山において行われてきたカモシカの直接観察調査を継続しておこなう。</p>		
	前年度研究計画及び研究成果	<p>●平成 31 年度</p> <p>ライトセンサス調査を実施し、シカ・カモシカの個体群の経年変化を検討するためのデータが得られた。3 種の糞分析をおこない、シカ、カモシカについては分析が完了した。四季を通じてバイオマス調査を実施し、各種の採食可能な植物の現存量を評価した。浅間山でのカモシカ調査を継続し、富士山と比較するための基礎データが得られた。</p>	
当該年度の実施内容	<p>●ライトセンサス調査を実施する。ノウサギの糞分析を実施し食性を明らかにする。カモシカの捕獲・GPS 装着および行動観察を実施する。森林限界付近にてカメラトラップを設置し、季節的な 3 種の生息状況およびカモシカの個体数を明らかにする。長野県浅間山において、富士山と比較するためのカモシカの行動調査を継続しておこなう。これまでに取得したデータの解析をおこない、論文を執筆する。</p>		
期待される研究成果	<p>●富士山の生態系の保全管理をするうえで重要なシカ・カモシカの個体群動態を長期的に評価する基礎データが得られる。</p> <p>●個体数の減少が危惧されるカモシカとノウサギの選好する生息環境や選好する食物およびシカを含めた 3 種の種間関係が解明される。</p> <p>●本研究により得られる草食獣 3 種の知見は、富士北麓における 3 種の保全と管理に関する指針を提供すると期待される。</p>		